

夢のつばさプロジェクト 2016年秋の交流会 学生報告書

【日程】2016年10月23日（日）

【場所】宮城県仙台市

仙台市民会館、西公園、青葉区中央市民センター（保護者懇談会実施）

【参加者】子ども16名（小学生7名、中高生9名）、大学生ボランティア27名、大人スタッフ4名、保護者3名

◆2016年秋の交流会について

夢のつばさプロジェクトの秋の交流会は今回が3回目となりました。当日は爽やかな秋晴れに恵まれ、楽しい一日を過ごしました。

震災から月日がたち、参加する子どもの年齢層が上がって中高生の割合が増えています。部活動や学校の行事などがあり、参加申し込みが少ないことを予想しておりましたが、予想以上の参加希望があり、学生スタッフ一同大変うれしく思っております。

今回の交流会では、午前中に仙台市民会館の調理室でお弁当作りをし、近くの西公園でピクニックのようにしてお昼ごはんを食べました。午後はお弁当を食べた公園でレクリエーションを行いました。また、子どもたちが調理室でお弁当作りを楽しんでいる間、数名の学生と大人スタッフが保護者様との保護者懇談会を行いました。以下に詳細をご報告いたします。

◆タイムスケジュール・詳細

時間	子どもたちの動き	保護者の動き
10:00	子どもたち 仙台駅集合 …①	
10:25	仙台駅発	
11:00	仙台市民会館 着	10:45～12:00
11:10	お弁当作り 開始 …②	保護者懇談会 …⑥
12:40	片づけ終了	
12:50	仙台市民会館 発	
13:00	西公園 着	

13:10	公園でお弁当を食べる …③	13:45 子どもたちと合流
13:40	外遊び（外レク、自由時間）…④	
15:40	西公園 発	
16:10	仙台駅 着	
16:30	解散 …⑤	

① 集合

多くの子どもたちは保護者の方々と一緒に仙台駅に集合しますが、郡山や盛岡など少し遠いところに住んでいる子どもたちには学生と大人スタッフがそれぞれ郡山と盛岡に迎えに行き、一緒に新幹線で移動して仙台駅に集合しました。

夏キャンプで会った子どもたちは2か月ぶり、夏キャンプに来ることができなかった子どもの中には半年ぶりに会う子どももいました。「あれ？また身長伸びた？」というように、会っていなかった2か月の間でも子どもたちの成長が感じられます。また、「短歌で賞取ったんだ！」「昨日文化祭だったんだよー！」というように、会っていなかった2か月間の近況を子どもたちの方から報告してくれました。

みんなが揃うと、送りにいらっしやっていた保護者の方々に「行ってきます！」とあいさつをして、仙台市民会館に向かいました。

② お弁当作り

午前中は仙台市民会館の調理室で、お弁当作りを行いました。内容は、「卵焼き」「ベーコンの野菜巻き」「炊き込みご飯のおにぎり」でした。

まず班の中で、自分がやりたいものを選びました。子どもたちの方から、「野菜切りたい！」「卵割りたい！」など、積極的な声が聞こえてきました。



ベーコンの野菜巻きは野菜を切るのは大きい子がやり、細く切った野菜をベーコンで巻くのは全員で楽しみながらできました。

また、卵焼きをつくるのが一番難しかったようで、1回目は失敗してしまう班もありましたが、丁寧に几帳面な子どもがフライパンの上できれいに形を整えて、失敗しそうになった卵焼きをうまく形にしていたり、「油をもう少し多くしたらいいんじゃない！」と言って2回目は油を多めにしてみようと成功した！という班もあったり、どの班も試行錯誤しながら、最終的にはおいしそうなお弁当が完成していました。

おにぎりをハートの形にしてみたり、プラスチックのお弁当箱に自分の好きな絵をか

いてみたりして、自分たちの思い思いのお弁当を作りました。そして自分のお弁当をもって、仙台市民会館の隣にある西公園へ移動しました。

③ 西公園にてピクニック

西公園につくと、持ってきたレジャーシートをしいて、午前中に自分たちで作ったお弁当をピクニックのようにして食べました。少し肌寒くはありましたが、天候にも恵まれ、いい秋晴れの中でお弁当をいただきました。

やはり自分たちで作ったお弁当はおいしかったようで、お弁当を残す子もなく、みんなが完食していました。男の子には量が少なく、物足りなかったようで、おにぎりを4つ食べている子どももいました。



④ 外レクリエーション・自由時間

お弁当を食べ終わると、同じく西公園でレクリエーションを行いました。

まず初めに行った「チーム対抗リレー」では、学生と子どものペアでチームを組み、ボール運び・縄跳びリレー・二人三脚を行いました。どれもペアの2人で力を合わせて競うものばかりで、さらにチーム戦ということでチームのメンバーを応援する声が飛び交い、

2人の仲やチームワークを深められたように感じます。リレーの後は、「ケイドロ」と「しっぽ取り」を行い、低学年の子も中高生も一緒になって走り回りました。

今回は移動が少なかったため、自由時間も多めにとることができ、ビーチボールやフリスビー、バトミントンなどを使って子どもたちも好きな学生と一緒に思い思いの遊びをして楽しんでいました。



⑤ 解散

西公園で遊んだあとは電車で仙台駅へ戻りました。公園ではしゃぎすぎてしまったため、低学年の子は帰りの電車の中ではぐったりしている様子で、疲れも見えました。しかし、子どもたちが笑顔で「楽しかったー!」と言っている声を聞くと、やはりうれしく思います。「冬が楽しみ!」「冬キャンプでまた会おうね!」と約束をして、子どもたちとお別れしました。

⑥ 保護者懇談会

午前中に子どもたちがお弁当作りをしている間に、青葉区中央市民センターにて保護者懇談会を行いました。今回は、子どもの保護者3名の方たちをお迎えし、大学生ボランティア2名、大人スタッフ2名の計7名での開催となりました。保護者懇談会は、学生ボランティアにとっては保護者の方たちからのお話を伺えるとても貴重な機会です。大切にしている催しです。今年も保護者の方がご参加くださって大変ありがたく思っております。

今回の懇談会では、夢のつばさの活動以外での普段のお子様のエピソードを伺うことができました。周辺では徐々に震災の記憶が薄れ、学校の中でも、親を失った痛みに思いが及ばない仲間から心無い言葉をかけられたり、また親を失ったことさえ口に出せないでいるなど、震災からもうすぐ6年が経とうとしている現在も、子どもたちが普段の生活の中で苦痛を感じているということを知りました。また更に、こうした懇談の会は保護者の方々にとっても、同じ境遇の保護者同士で話せる場となっており、悩みなどを共有したり相談したりできる場になっているのがわかって、保護者懇談会の重要性をさらに強く感じました。

保護者懇談会後、保護者のおひとりが、公園で子どもたちが元気に遊んでいる様子を見にいらっしやいました。お子さまが学生やほかの仲間たちと、笑顔で元気いっぱい走り回っている様子をご覧になって、ご安心なさったことと思います。

◆秋の交流会を終えて

秋の交流会では、参加する子どもたちの年齢幅が広がっていることを実感する場面が何度かありました。夢のつばさのメンバーは今年の4月に中学生になった子どもが多く、今回は初めて中高生の参加人数が小学生の人数を超えました。そして最近仲間に加わった小学2、3年という小さい子どもたちも参加しています。そのため、初めての試みとして、電車での移動時などに学生も補助に入りながら、高学年の子どもが低学年の子の面倒を見るという形を取りました。今までは、学生がどのように子どもの世話をしたらよいかを考えることが多かったと思いますが、これからは高学年の子どもたちに企画の運営をするよう促したり、小さい子に心配りができるよう声をかけるなど、子どもの成長に合わせて、学生の対応も変えていく必要があるように感じました。

最後に、今回の交流会を無事に終えることができましたのも、大人スタッフの方々はじめ、いつも夢のつばさを支えてくださる方々のお力によるものであると深く感謝しております。次回の冬キャンプに向け、大学生ボランティア一同、精一杯努力してまいりますので、今後ともご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

大学生ボランティア副代表 お茶の水女子大学2年 川野真帆